

# 令和4年度 白子川生物調査の概要

## 1 調査概要

### ① 調査地点及び調査日時等

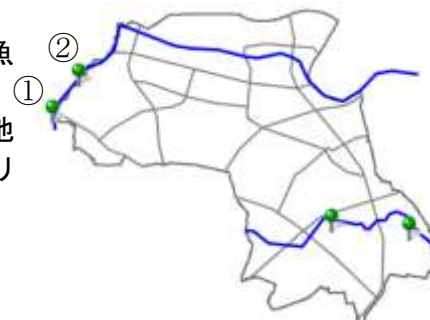
河川名	調査地点名	調査実施日	調査時間	気温(°C)	水温(°C)
白子川	①東埼橋上流付近	2022/7/28(木)	9:00~10:45	32.0	25.0
	②白藤橋	2022/7/28(木)	11:45~15:30	34.0	32.0

### ② 調査方法

各調査地点において投網、タモ網(手網)及びカゴ網を用いて、魚類、底生動物を採集した。

採集した個体は、現地で種の同定、個体の計測、写真撮影後、現地に再放流した。現地での同定が困難な個体については、10%ホルマリンで固定して持ち帰り、実体顕微鏡下で同定した。

なお、底生動物については、肉眼で見える個体を採集対象とした。



### 調査状況写真



投網



タモ網



カゴ網

## 2 調査結果

### ① 河川状況

#### (1)東埼橋付近

東埼橋直下にS型の淵があり、更にその下流に高い落差工がある。増水によりかなり水位が上昇しなければこの落差を魚類が遡上することは困難と考えられる。淵の上流は水際が綱矢板等で護岸され、河床が布型枠等で護床されている。

カゴ網は子安橋の上・下流部で、やや淵状になっている2箇所に設置した。



#### (2)白藤橋付近

河床はコンクリート張りであるが、白藤橋の下流約100mの位置に土砂が堆積しており、浅い淵と瀬が形成されている。

カゴ網は白藤橋の下流のやや淵状になっている2箇所に設置した。



## ② 魚類調査結果

白子川の2地点全体では、ニホンウナギ、オイカワ、アブラハヤ、モツゴ、ドジョウ、アユ、ヌマチチブなど、4目6科14種の魚類が確認された。

出現種のうち、「環境省 RL2020」に該当する種として、絶滅危惧ⅠB類に該当するニホンウナギ、準絶滅危惧に該当するドジョウが確認された。

「東京都 RL2020 区部」に該当する種として、絶滅危惧ⅠB類に該当するニホンウナギ、絶滅危惧Ⅱ類に該当するアブラハヤ、準絶滅危惧に該当するマルタ、ウキゴリ、ヌマチチブ、情報不足に該当するオイカワ、ドジョウ、シマヨシノボリ、旧トウヨシノボリ類が確認された。

外来種については「特定外来生物」に該当する種は確認されなかった。

No.	目名	科名	種名	白子川		合計	環境省 RL 2020	東京都 RDB 2020 区部	外来種	
				① 東埼橋上 流付近	② 白藤橋 付近					
1	ウナギ目	ウナギ科	ニホンウナギ		4	4	EN	EN		
2	コイ目	コイ科	オイカワ		16	16		DD		
3			アブラハヤ	3	2	5		VU		
4			マルタ		3	3		NT		
5			モツゴ		1	1				
6			ドジョウ科	ドジョウ	2		2	NT	DD	
7		サケ目	アユ科	アユ		1	1			
8	スズキ目	ボラ科	ボラ		3	3				
9		ハゼ科	ウキゴリ		3	3		NT		
10			マハゼ		2	2				
11			ヌマチチブ		47	47		NT		
12			シマヨシノボリ	8		8		DD		
13			旧トウヨシノボリ類	5		5		DD		
14		スミウキゴリ	13		13					
		4目	6科	14種	種類数計	5	10	14	2	9
				個体数計	31	82	113			

○「環境省 RL2020」: 環境省版レッドリスト(絶滅のおそれのある野生生物の種のリスト)2020年

絶滅危惧ⅠB類(EN): I A類ほどではないが、近い将来における野生での絶滅の危険性が高いもの

準絶滅危惧(NT): 現時点での絶滅危険度は小さいが、生息条件の変化によっては「絶滅危惧」に移行する可能性のある種

○「東京都 RL2020 区部」: 東京都レッドリスト(本土部)2020年版

絶滅危惧ⅠB類(EN): I A類ほどではないが、近い将来における野生での絶滅の危険性が高いもの

絶滅危惧Ⅱ類(VU): 現在の状態をもたらした圧迫要因が引き続き作用する場合、近い将来「絶滅危惧Ⅰ類」のランクに移行することが確実と考えられるもの

準絶滅危惧(NT): 現時点での絶滅危険度は小さいが、生育・生息条件の変化によっては「絶滅危惧」として上位ランクに移行する要素を有するもの

情報不足(DD): 環境条件の変化によって、容易に絶滅危惧の категорияに移行し得る属性を有しているが、生息状況をはじめとして、ランクを判定するに足る情報が得られていないもの

○外来種

「特定外来生物による生態系等に係る被害の防止に関する法律」環境省に指定された種(2017)。

「我が国の生態系等に被害を及ぼすおそれのある外来種リスト」環境省及び農林水産省に指定された種(2016)

### ③ 底生動物調査結果

白子川全体では、チリメンカワニナ、シマイシビル、カワリヌマエビ属、アメンボなど、13目25科29種の底生動物が確認された。

出現種に、「環境省 RL2020」に該当している種はなかったが、「東京都 RL2020 本土部」の留意種に該当する種として、モクズガニが確認された。

外来種については「特定外来生物」に該当する種は確認されなかったが、「緊急対策外来種」に該当するアメリカザリガニ、「その他の総合対策外来種」に該当するフロリダマミズヨコエビが確認された。

No.	目名	科名	種名	白子川		合計	環境省 RL 2020	東京都 RL 2020 区部	外来種
				① 東埼玉橋 上流 付近	② 白藤橋 付近				
1	三岐腸目	サンカクアタマウズムシ	アメリカツノウズムシ	26	1	27			未評価
2	新生腹足目	カワニナ科	チリメンカワニナ	14		14			
3	汎有肺目	サカマキガイ科	サカマキガイ		1	1			未評価
4		ヒロマキガイ科	ヒロマキミズマイマイ	1	2	3			未評価
5	オヨギミズ	オヨギミズ科	オヨギミズ科	1		1			
6	吻無蛭目	イシビル科	シマイシビル	5	2	7			
7		ナガレビル科	ナガレビル科		1	1			
8	ヨコエビ目	マミズヨコエビ科	フロリダマミズヨコエビ	2		2			その他
9	ワラジムシ	ミズムシ科	ミズムシ	6	5	11			
10	エビ目	ヌマエビ科	カワリヌマエビ属	40	2	42			
11		アメリカザリガニ科	アメリカザリガニ	7		7			緊急
12		モクズガニ科	モクズガニ	5	2	7		留	
13	カゲロウ目	マダラカゲロウ科	エラブタマダラカゲロ	2	2	4			
14	(蜉蝣目)	コカゲロウ科	フタバコカゲロウ		1	1			
15			サホコカゲロウ		8	8			
16			ウスイロフトヒゲコカゲロ	1		1			
17			ウデマガリコカゲロウ	5	5	10			
18	カメムシ目 (半翅目)	アメンボ科	アメンボ	4	5	9			
19	トビケラ目 (毛翅目)	シマトビケラ科	コガタシマトビケラ	1		1			
20			コガタシマトビケラ属	7		7			
21		クダトビケラ科	クダトビケラ属		2	2			
22		ヒメトビケラ科	ヒメトビケラ属	2	3	5			
23		ニンギョウトビケラ科	ニンギョウトビケラ	1		1			
24		ヒゲナガトビケラ科	アオヒゲナガトビケラ		2	2			
25	ハエ目 (双翅目)	ガガンボ科	ガガンボ属	1		1			
26		ユスリカ科	ヒゲユスリカ属	4	10	14			
27		ブユ科	ツノマユブユ属	1		1			
28	コウチュウ目	ガムシ科	コモンシジミガムシ	1		1			
29	(鞘翅目)	ヒラタドロムシ科	マサダチヒラタドロ	2	8	10			
計	13目	25科	29種類数計	23	18	29	0	1	5
			種	139	62	201			

○「環境省 RL2020」:環境省版レッドリスト(絶滅のおそれのある野生生物の種のリスト)2020年

○「東京都 RL2020 区部」:東京都レッドリスト(本土部)2020年版

○外来種

「特定外来生物による生態系等に係る被害の防止に関する法律」環境省. に指定された種(2017)。

「我が国の生態系等に被害を及ぼすおそれのある外来種リスト」環境省及び農林水産省. に指定された種(2016)

緊急:緊急対策外来種。対策の緊急性が高く、積極的に防除を行う必要がある種

その他:総合対策外来種のうち、緊急対策外来種、重点対策外来種以外の種

未評価:未評価であるが国外外来種

### 3 経年変化について

東埼橋上流付近の確認種は、経年的にスミウキゴリが多く、次いでドジョウなどが確認されている。調査水域は水深が浅く、瀬や淵、寄り州などの環境が少なく単調であるため、魚類にとっては生息環境が少ない地点で、確認種類数は、平成 22 年以前は 9 種、平成 23 年からは 3~6 種程度である。本年度はアブラハヤ、ドジョウ、スミウキゴリのほか、前回調査で確認されなかったシマヨシノボリ、旧トウヨシノボリ類が再び確認され、全体では 5 種の魚類が確認された。大きな変化はなく、例年通りの状況であった。

白藤橋付近では、平成 22 年以前は 19 種、平成 23 年からはコイ、マルタ、アユ、ボラ、アマチチブなど 7~12 種が確認されており、本年度も同様な種が確認され、全体では 10 種の魚類が確認された。この地点は砂泥や礫などの堆積があり、小規模ながら瀬、淵などの環境がある。廃棄された鉄パイプの中などにはニホンウナギやマハゼなどが確認されている。また、この地点は感潮域でニホンウナギ、マルタ、アユ、スズキ、ボラ、スミウキゴリ、マハゼ、アマチチブなど汽水域に生息する魚種を中心に確認種類の多い地点である。本年度もニホンウナギ、アユ、ボラ、マハゼ、アマチチブなど汽水域に生息する種が確認された。また、平成 29 年以外毎回に確認されていたコイは確認されなかったが、これまであまり確認されていなかったオイカワが、平成 23 年度以来、再び確認された。

生息する種類や個体数の変動の要因としては、各調査地点とも河川構造が概ね単純な 3 面張り護岸となっており、近年多発するゲリラ豪雨等の急激な増水により河道が洗われてしまうため、大半の魚類が、下流に押し流されたり、逆に上流から流されて来たりすることによるものと考えられる。したがって、今後も魚類相の変化や個体数の変動について継続して把握することが必要であると考えられる。

## 魚類の経年調査結果

白子川①東埼橋上流付近

No.	目名	科名	種名	H14~22	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	R1	R2	R4	環境省	東京都	外来種
1	コイ目	コイ科	フナ属(含金魚)	○														
2			オイカワ	○													DD	
3			アブラハヤ	○		3							1		3		VU	
4			モツゴ	○														
5			タモロコ	○			1			5								
6		ドジョウ科	ドジョウ	○	3	3	2	1	3	3	2	3	5	3	2	NT	DD	
7			ヒガシシマドジョウ*2										1	1			VU	
8			シマヨシノボリ				2		2	2	6	2	2		8		DD	
9			旧トウヨシノボリ類*3	○	2	2	4	5		2	8	3	3		5		DD	
10			ヨシノボリ属		1									1				
11	スズキ目	ハゼ科	スミウキゴリ	○	3	4	9	4	9	9	15	10	13	14	13			
12			ウキゴリ	○													NT	
	1目	2科	種類数合計	9	4	4	5	3	3	5	4	4	6	4	5	1	7	0

白子川②白藤橋付近

No.	目名	科名	種名	H14~22	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	R1	R2	R4	環境省	東京都	外来種
1	ウナギ目	ウナギ科	ニホンウナギ*1	○	4	1		1	2	1		1	1	1	4	EN	EN	
2	コイ目	コイ科	コイ	○	20<	20<	20<	20<	20<	20<		20<	20<	10				
3			フナ属(含金魚)				1											
4			ダニオ亜科	○														
5			オイカワ	○	3										16		DD	
6			アブラハヤ			1		2							2		VU	
7			マルタ	○	16	2	7	2	4		100<				3		NT	
8			モツゴ	○	1						5				1			
9			タモロコ	○		1					5							
10			ニゴイ		9									2			NT	
11	ナマズ目	ナマズ科	ナマズ							1								
12	サケ目	アユ科	アユ	○	112	520	19	100<	100<	100<	4		100<	100<	1			
13	カダヤシ目	カダヤシ科	カダヤシ	○														特、重
14	ダツ目	メダカ科	ミナミメダカ		1						4					VU	CR	
15		ボラ科	ボラ	○	13	1	86		9	5	100<	100<	6	8	3			
16	スズキ目	スズキ科	スズキ	○		1				5		3	1	3				
17		ハゼ科	スミウキゴリ	○		3	1	9	1		1	6						
18			ウキゴリ	○		5					1	2	1		3		NT	
19			ウキゴリ属	○														
20			マハゼ	○	3	2	4	1		2	5	100<	1	2	2			
21			旧トウヨシノボリ類*3	○				2			8						DD	
22			ヨシノボリ属	○														
23			ヌマチチブ	○	111	9	12	100<	100<	100<	100<	100<	100<	39	47		NT	
24			チチブ属	○														
25			カムルチー										1					
	31目	9科	種類数合計	19	11	12	8	9	7	8	11	8	9	8	10	2	9	1

\*1)過年度調査ではウナギとして記載あり

\*2)過年度調査ではシマドジョウとして記載あり

\*3)トウヨシノボリ類の種名は「河川水辺の国勢調査のための生物リスト 2021」に従った。過年度調査ではトウヨシノボリ、旧トウヨシノボリ類として記載あり

環境省:「環境省 RL2020」:環境省レッドリスト(絶滅のおそれのある野生生物の種のリスト)2020年

EN:絶滅危惧IB類 VU:絶滅危惧II類 NT:準絶滅危惧

東京都:「東京都 RL2020 区部」:東京都レッドリスト(本土部)2020年版

CR:絶滅危惧IA類 EN:絶滅危惧IB類 VU:絶滅危惧II類 NT:準絶滅危惧 DD:情報不足

・外来種は、以下に従った。

「特定外来生物による生態系等に係る被害の防止に関する法律」環境省. に指定された種(2017)

特:特定外来生物:外来生物(海外起源の外来種)であって、生態系、人の生命・身体、農林水産業へ被害を及ぼすもの、又は及ぼすおそれがあるもの

「我が国の生態系等に被害を及ぼすおそれのある外来種リスト」環境省及び農林水産省に指定された種(2016)

重:重点対策外来種 甚大な被害が予想されるため、対策の必要性が高い。

・種名及び配列等は、原則として「河川水辺の国勢調査のための生物リスト 2021」に従った。

採取生物写真



オイカワ

マルタ

モツゴ



ドジョウ

アユ

ボラ



ウキゴリ

ヌマチチブ

シマヨシノボリ



チリメンカワニナ

カワリヌマエビ属

モクズガニ

問い合わせ先：板橋区資源環境部環境政策課自然環境保全係 電話：03-3579-2593